Nara Women's University

小学校1年生における総合的な学習と複数の教科横断的な学習の一事例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-06-30 キーワード (Ja): 総合的な学習, 金魚, 動き, かたち キーワード (En): comprehensive learning, goldfish, movement, shape 作成者: 河田, 慎太郎, 朝倉, 慶子, 伊藤, 志穂, 青木, 惠子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/0002005717

研究資料

小学校１年生における総合的な学習と複数の教科横断的な学習の一事例

河田慎太郎[1)]・朝倉慶子[2)]・伊藤志穂[3)]・青木惠子[3)]

A case study on 'the Period of Integrated Study' and interdisciplinary learning in first grade of elementary school

Shintaro Kawata[1)], Keiko Asakura[2)], Shiho Ito[3)], Keiko Aoki[3)]

Abstract

This research paper introduces an attempt to offer the first-grade-students chances to emerge themselves into various settings of not only taking care of the goldfish and visiting the goldfish museum to study about them, but also expressing physically in PE classes and using them as themes for art and craft within the framework of the "Integrated Study".

Through these interdisciplinary classes, students ceased to regard goldfish as materials of different subjects and started to think that they are connected to their own daily lives and as a whole, they were able to make great use of goldfish as object of their free expression.

Based on the records of students' utterances, diaries, moves and works, we will try to depict what they have learned. At the same time, students filled out a questionnaire that gives us clues on how they have perceived the classes as a chance for their learning.

(Research Journal of Sport Science in Nara Women's University, 26-1: 30-39, 2024)

Key words: comprehensive learning, goldfish, movement, shape
キーワード：総合的な学習，金魚，動き，かたち

1）奈良教育大学附属小学校　教諭
〒630-8301 奈良市高畑町
The Elementary School Attached to Nara University of Education, Takabatakecho, Nara-shi, Nara, 630-8301
2）大阪大学人文学研究科言語文化専攻博士前期課程
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8
Graduate School of Humanities, Division of Language and Culture, Osaka University, 1-8, Machikaneyamacho, Toyonakashi, Oska, 560-0043
3）奈良女子大学附属小学校非常勤講師
〒631-0024　奈良市百楽園１丁目 7-28
The Elementary School Attached to Nara Women's University, 7-28, Hyakurakuen-1choume, Nara-shi, Nara, 631-0024

はじめに

小学校で2002年4月に施行された学習指導要領により創設された「総合的な学習の時間」は，周知のとおり，子どもたちが自ら学び，自ら考える力や学び方，ものの考え方などを身につけ，よりよく問題を解決する資質や能力などを育むことをねらいとして創設されたものである[1) 2)].

本稿は，小学1年生が入学してほどなく，金魚を飼うことに端を発した学級での「総合的な学習」[注1)]が，運動会での表現運動や図工といった，これまで「総合的な学習」としては結びつきが希薄であった科目でも扱われることにより，子どもたちが各教科の枠組みとしてとらえず総合的に捉え，自分ごととして「きんぎょ」[注2)]を学習するように発展を遂げた例として記すものである．日々観察することから始まる金魚との触れ合いの積み重ねだけでは得ることができなかった，「金魚になる」ことによって現れた子どもたちの学びを考察する．加えて，表現運動や図工の学習の過程で，自ら学んだ新たな発見や物事の理解の仕方を紐解く．

教科横断的な学び

1．実践の概要

2023年4月から9月まで，総合的な学習のテーマとして本題材「きんぎょ」を設定した．ねらいは，題材を総合的に捉え，金魚を自分ごとにして表現に活かす態度を育むことである．1年生では，総合的な学習の時間とダンス[注3)]，図工の時間を使って取り組んだ．

1年生の子ども68名は，2023年5月から7月にかけて総合的な学習で金魚の飼い方や動きの不思議を追究した．2学期にダンス学習を行い，動きの追究を行った．さらに，9月には図工学習を行い，金魚の被り物をつくった．

2．1学期の学習

2023年度の1年では，総合的な学習の時間（4月17日5限）でどんなペットを飼っている子がいるか，ペットにはどのようなお世話をしてあげているか，どんなことに気を付けてあげればよいと思うかなどについて話し合ううちに，上級生の学級でもやっているように，学級で生き物を飼育したいという話が持ち上がった．

どのような生き物が良いか話し合ううち，学校のある奈良市のすぐ隣に金魚の養殖で有名な大和郡山市があることを知った．その後，金魚を身近に感じたからであろうか，学級で金魚を飼いたいという考えにまとまっていった．

そして飼いたい金魚の種類，金魚を飼うために必要な道具，世話のし方，などについて話し合いを重ねた．友だちの考えに付け足したり，質問したりすることで，探究を深めた．また，自分のお気に入りの金魚の種類を色画用紙にクレパスで描く学習も行った．以下に，月組での学習事例を記す．なお，星組も同様に学習が進んだ．

5月11日　5限目　教室

どんな種類を飼うかの話し合い

〇和金

・フナと形が似ていて泳ぐのが一番上手だから

・泳ぐのが上手だと，エサをたくさん食べられる

・他種の金魚と一緒に飼わないほうがいい

・ドジョウを一緒に飼うなら和金でないと，ドジョウが金魚をいじめる

〇琉金

・見た目がかわいく，泳ぎ方がゆったりしている

・オランダ獅子頭は顔がもこもこしていてかわいい

〇らんちゅう

・丸くて泳ぎ方がかわいい

・背びれがないところがよい

・背びれがないと泳ぐのが上手ではないから，飼いにくそう

〇水泡眼

・口の横が膨らんでいてかっこいい

・値段が高すぎる

5月16日　5限目　教室

飼うために必要な道具の話し合い

〇水槽は大きいものがいい

・たくさん飼えるから

・60Lという大きさの水槽がある

・水が汚れにくいので病気になりにくい
○砂を入れる
・砂の間に汚れが入り水をきれいにする
・ドジョウを一緒に飼うと，砂の中のえさの残りを食べてくれる
○隠れ場所をつくる
・飾りを入れる
・餌の代わりにもなるので水草も入れる
・木を入れる
○ブクブク泡が出るものを入れる
・金魚にも空気がいるらしい
・水に空気が溶けるらしい
・ブクブクは，水もきれいにもする
○明かりもつけたい
・金魚がきれいに見られる
・水草が元気になる

金魚について十分な話し合いをした後，校外学習として金魚の生産で有名な大和郡山市にでかけた．見学先は金魚すくい道場のある「こちく屋」と様々な種類の金魚を展示・販売している「郡山金魚資料館」である．

5 月 19 日　校外学習

① 「こちく屋」

郡山の金魚を広めるため，お店の中に「金魚すくい道場」として金魚すくいができる水槽を 30 個ほどおいている．金魚の動きを知ったり，金魚すくいのルールを学んだりした．また，実際に金魚すくいにも挑戦した．

②「郡山金魚資料館」

様々な種類の金魚を水槽で展示している．子どもたちは，学習してきたそれぞれの金魚の特徴について目を凝らしながら観察した．

金魚を販売している水槽も見学させていただいた．こちらでは，今後購入して学級で飼育することを考えながらの見学であったため，大きさや値段，色や模様についてもじっくり観察していた．

5 月 31 日　放課後

教員だけでもう一度郡山まで出向き，４匹の金魚を購入した．子どもたちが話し合いできめた和金である．別のお店でドジョウも購入し，教室内の金魚水槽での飼育が始まった．

3．総合的な学習の時間に学ばせようとしたこと

総合的な学習の時間（1 年，動物愛護）の学習を通して，動物との共存について学ばせたいと考えた．動物は，一般的に人間とのかかわりで野生動物・家畜・ペットの 3 種類に分けられると考えている．このうち今回は身近なペットとの共存を学ぶ．

金魚の学習では，ペットとして学級で動物を飼育するために，必要な知識を得て実現すること（知り合いやペットショップの方に聞く，iPad で調べるなど，知識を得るための方法を学ぶことも含む）や，愛着をもって動物に接する心を育むことなどを中心に学ばせた．そして，実際に教室で飼育する金魚を決めるための話し合いの中では，病気になりにくい金魚や一緒に飼育しても共存できる種類についてが，中心議題となり金魚がストレスなく過ごせることを大切にする思いやりが伺えた．

4．運動会作品「きんぎょ」ができるまで

本研究の対象である奈良女子大附属小学校では，秋に開催される運動会において「表現運動」として学年ごとに「創作ダンス」を発表する．担任とダンス専科[注4)]が，合同で作品つくりに取り組む．これまでの金魚について学習してきた経緯を考えると，入学してから子どもたちが心を寄せて見たこと感じたことの中でも，特に関心が高いと考える．また，この先も飼育し続けることから，さらに身近な存在であり続けるであろう．ダンス専科である筆者は，担任に「運動会作品を『きんぎょ』でやりたい」と相談すると「それは子どもたちがとても喜ぶ」との後押しをもらい，運動会作品のテーマを「きんぎょ」にする．

友だちと動きを一緒になって作る経験によって，他者との関わり方を学んでほしい．また，金魚になって自由に動き回ることができるようになることで，思いどおりに動く楽しさを味わってほしい．以上のことから，三つの場面，①グループで動く一匹の金魚，②金魚すくいを連想させる，象徴的な道

具「ポイ」の動き，③一人で一匹の金魚になって自由に動く，を作ってみることにした．いずれも豊かな経験となると考えた．

また，金魚になりきるための道具を作ることはできないだろうかと，同時期に模索し始める．

授業記録　全13時間（9月14日～10月14日．

添付資料参照）の授業記録から抽出し，詳細を考察する．

9月14日（木）第1回目　集会室

「きんぎょ」を題材に運動会でのダンス作品を作ることを子どもたちに伝える．口々に「やったー！」と声を上げる．同時に拍手も起きた．

グループごとに円形を形成させる．その円形をポイに見立てて動いてみるように促す．子どもたちは、手を繋ぎ円形になると，互いの顔をみながらどのグループもにこにこと笑顔を絶やさない．中には，笑顔のままいきなりぐるぐると回りだすグループもある．同じ動きに飽きてくると，反対方向に周り始めたり，円形を保ったまま移動し始めたりするグループもある．

題材を告げた時の反応から，子どもたちの金魚に対する関心の高さと親しみが伝わってくる．

子どもたちは，手を繋いで円形になること自体も含め，思い思いにポイの動きを楽しんだ様子が伺える．

9月21日（木）第2回目　集会室

前回に続き，同じグループで活動する．前半は前回同様ポイを表現し，後半はグループで一匹の金魚を表現することにした．

全員が縦一列の行列になり，ぞろぞろ歩くグループがある一方で，左右や尾のヒレ役の役割分担を具体的に決めてから，金魚の形を作ろうとするグループもいる．各々腕で他者のどこかを持ち，または手を添え離れることはない．前進するとすぐにバラバラになってしまい，立ち止まる．再び同じように配置し，前進することを繰り返していた．

この日の日記に，グループでの金魚やポイについて「ちぎれた」ことを「うまくいかなかったこと」として書いた子が3名いた．身体的接触がなくなることは，自分たちが一匹の金魚やポイでなくなると捉えていると考えられる．

9月27日（水）第5回目　運動場

授業始めに集合した際，「金魚らしく動きたい」「金魚っぽく動きたい」という子どもたちに，「金魚らしさは何ですか？」と尋ねると判で押したように「ひらひら」と答える．

ポイの動きとグループで一匹の金魚をやってみたのち,一人で一匹の金魚になって踊ってみる．大半の子が手のひらを体の横でひらひらと動かしながら,運動場のトラックの白線に沿うように走っていく．同一方向へ走っていくため、ぶつかったりはしない．中には、手を軽く握るようにして全速力で走っていく子もいる．

全速力で走っている子が，果たして金魚になっているのかという疑問はある．しかし危険を伴う行動はなく，よく見ると必死に群れについていこうとしている様子が伺える．走る＝金魚ではないという既存の価値観に捉われて，子どもが何をしようとしているのかを見落としてはだめだと改めて思う．

9月29日（金）第6回目　運動場

一人でやる金魚の動きをやってみる．2回踊ったところで，運動場の端っこの方に，胸の前で手を交差させて，ゆらゆらとしているAに授業者が気づく．よく見ると，俯き加減にゆさゆさと上体を揺らしたかと思うと，今度は，顔をあげて大きく両手を広げて二三歩前進する．大きく移動することなく，ほとんど同じ位置で全身を揺らし続けるのだ．人魚が自由に海中を動き回るかのようである．

曲が終わって集合した際，Aに踊ってもらうことにした．Aは，先程と同様全身をゆらゆらさせながら，時には上を向いて旋回するようにジャン

プするなど生き生きと踊った．全員の拍手を浴びながらみんなのところに戻ってきたＡに「何をどうイメージしたの？」と授業者が尋ねた．すると，胸の前を手でさすり「ここに水があると思って，全部が水と思って金魚になりました.」と答えた．
続けてＡは「もっともっと，ひらひらしたかったです.」とも言った.思わず授業者が，拍手をする.つられるように、ほかの子どもたちも拍手を送った.「私も、あれがやってみたい」とＢが声を上げここで時間切れとなって授業が終了する.来週続きをやることを約束する．

運動場で，一年生にたった一人で躍らせることに，躊躇した．たいていの場合，緊張してしまうからなのか，先ほどまでやっていた動きとは，全く違うことを始めてしまうからである．ところが，Ａは堂々と先程よりもさらに自由に伸び伸びと動く．教室で飼っている，水槽の中で泳ぐ金魚を眺めた記憶が，具体的なイメージとなって自分もその金魚になったことが，発言からも伺える．

図２　一匹の金魚になるＡ

10 月 2 日（月）第 7 回目　運動場

運動場へそれぞれが全速力で散っていき，曲を待つ．前回やった一人で踊ることの続きがやりたくて，子どもたちは待ちわびていたようである．Ａとよく似た動きをする子が増える．相変わらずぐるぐる運動場を回っている子の中に，時折移動を止め，口の中から砂を吐くような動作を繰り返す Ｃ をみつけた．曲が終わり集合した時に，金魚の特徴的な動きである口から砂を吐く動作をしたＣを，授業者は誉めた．そして「自分がやりたい金魚の動きは、どんな動きかな？見つけた動きを気持ちよくやってみよう」と全体に促す．その後、エイのように大きく腕を降り下ろしながら進むＤを見つける．腕を上下させながらＡに近づき，大きくＡのまわりをまわった．

Ａの動きをきっかけに，自分で見つけた前進だけではない金魚の動きを，創り始めた子がいる．誰かと戯れるように踊る姿も見られ始める．この日はたまたま見つけることができたが，動き続ける集団の中でそういったことを見つけることができない時の方が多いように感じる．

図 1　腕を振り下ろしながら泳ぐＤ

10 月 10 日（火）第 11 回目　運動場

被り物をつくってから，初めての練習．特に動きの変化は見られない．被り物を作った行為だけでは，動きのイメージには結びつかないのかもしれない．

10 月 12 日（木）第 12 回目　運動場

被り物をつけて踊ってみる．これまでとは，見違えるように生き生きと動き出す．特に，頭を振り回すような動きが目に見えて多くなっている．動き始めてしばらくすると，さらに上体を反らして頭を大きく回す子も出始める．両腕を精一杯斜めに伸ばし，身体を旋回させる子もいる．走る子もいるのだが，よく見ると誰もいないところをみつけてそこへ向かってぐいぐいと進んでいく．

今まで，脇を閉めて肘を折り手首を曲げて手のひらだけを動かしてパタパタと小走りに移動していた子が一人もいなくなった．

同時に，グループの動きにも大きな変化がみられる．グループのメンバーが一斉に膝を折ったり

伸ばしたり，腕を高く上げたり下げたり，連動しながらゆったりと泳ぎだすようになった．

曲が終わって集合する度に，グループの動きも，個人の動きも，「もっともっとやりたい」という声が多く上がった．

これまで大半の子がやっていた手のひらをパタパタさせる動きは，「ヒレを動かして泳いでいる小さな金魚」を象徴した記号としての動きとして使っていたのかもしれない．自分の動きに連動してたなびいてくれる被り物を着けたことで，記号としてのヒレ（手）から解放されて，全身が金魚でいられる．そしてヒレである被り物を纏った金魚になりきり，思いどおりに動こうとしている様子がよくわかる．さらには，目に映る友だちのヒレの動きを，自分の動きに重ねてイメージを押し広げ，泳ぐ金魚になるのだ．

図 3　被り物をつけて金魚を踊る子どもたち

ヒレの被り物を作っただけでは動きに変化は見られなかったのに，身体の一部にすると（身体性を持たせると），子どもたちは見違えるように金魚になり動いて見せた．ヒレの被り物をつけて踊ることは，金魚のヒレの動きの残像を，頭の中に描き続けることを容易にさせ，そのことによって，イメージが深まったのだと考えられる．

図 4　グループで一匹の金魚になる子どもたち

グループの動きでは，それまで，お互い接触していることが，一匹を表現していると考えている傾向が強かったが，試行錯誤を繰り返すうち，接触に対するこだわりが弱まっているのか，接触が離れてしまっても慌てるそぶりがなく，一緒にしゃがんだり伸び上がったりしている．友だちの動きの質を感じるということを，学んでいるといえよう．このことは，初歩的な他者理解の仕方の一つである．

子どもたちは，具体的に自分たちの動きをどのように変えたいかが明確になっており，それに向かって意欲的なようすが伺える．

10 月 14 日（土）運動会当日　運動場

運動会当日である．子どもたちは，当日，踊っているうちに動きがどんどん変化していった．それまで一度もしていなかったジャンプをする子が出てきたり，斜め下へ旋回する子や，止まってその場でヒレだけを動かし続けてから前進を始める子がいたりと，それぞれが新しい動きの工夫を見せ続け，自分のイメージを動きに変えることを最後までやり続けた．

被り物を付けた以降，すべての子どもたちの動きに大きな変化が見られ，子どもたちは本番当日も臆することなく金魚になることができた．

運動会が終わって，子どもたちは各自被り物を持って帰った．大半の子どもが，満面の笑みで装着したまま帰路に就いたという．運動会 3 日後に担任が，専科の顔を見るなり報告した．

5.　金魚の被り物作成について

9 月中旬，ダンスの授業者から，小学１年生の授業の様子や，運動会でダンスの表現運動時に図工で制作したものを身につけて踊るイメージを口頭で共有された．そこから，身につけるアイテムとして考えた３案をダンスの授業者と図工の授業者がそれぞれ身につけて踊ってみた．3 案は，①頭に紙

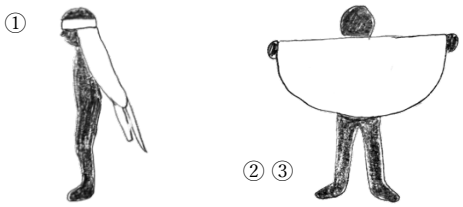

図５身につけるアイテムとして考えた３案

で作った輪をかぶり，その輪に，思うような形に切ったビニール袋を取り付け，マジックで色付けをしたり，模様を書き込んだりするもの，②不織布のマント，③ビニールのマント である．それぞれがいいと感じたものは①で，必要であれば，さらにPPT テープをつけて装飾を加えることもできる．自らの身体を動かした時に反応しやすい素材・形・色という観点で検討したが，同時に他者の動きと連動した造形物から受け取る鑑賞のしやすさにも着目し，これを採用した．

図６ ①の試作品

10 月６日（金） 図工室
被り物作成

授業始めに，題材を子どもたちに提示した．すると，担任がダンスの授業中に心に残る動きを示した子どもを指名しその子が広い場所に移って，デモンストレーションとして踊った．

それを見て，多くの子が目を見開いた．また，あちらこちらから「あぁ！」という呟きや，「大好きなピンク色を使おう！」「楽しい感じの黄色でしょう」「ひらひらする感じにしよう」「先生、好きな形に切っていいですよね？」「早くしたい！」など，意欲的な声が飛び交った．

指名された子が踊ったことにより，それを見た子ども達のイメージが一気に湧き上がるように感じた．まだ身につけてはいないが，子どもたちは友人の動きからどのような金魚になろうとしているのか，学級の水槽で泳ぐ金魚のどのようなところに惹かれているのか，といったことを考えながら造り始めた．子どもたちのつぶやきから，造ったものを身につけることによって，それを自らのダンスでどう表し踊りたいのか，また，踊ることで身につけるものをどう動かしたいのかを，あふれるように思いついている様子が，それぞれ発する言葉から伝わってくる．

Ｅに，制作中のビニールがとても長い理由を尋ねると，「私がダンスする時にゆらめいているのを自分で見ることも，感じることもできるから，長くしている．この長さが必要だ．」と応えた．このやり取りを耳にした子どもたちも，頭につけて身体を揺らして，ビニールのゆらめきを確かめ，PPT テープを追加する必要に気づいたり，ビニールの形を調整したり，模様を描き加えたりと，制作と鑑賞を自然に往来させている．授業者や担任に，「いいものが出来たので，見てほしい」と持ってくる子どもには，「いいね」と肯定的な声を第一声にかけ，さらに，「教室で泳いでいる金魚の動きにそっくりだね」や，「水の中で気持ちよさそうな感じだなぁ」，「身体を動かした時に連動する，この（ビニールの）辺りのゆらめきを金魚がしているのを見たことがあるよ」など，具体的に感じたよさを言葉にした．どのように表すのか迷っている子どもに，授業者は「〇〇さんの模様の部分を見に行ってみると参考になるかもしれないよ」などと声をかける．

Ｅとのやり取りから，身体すべてを使ったダンスと造形であるという意志が伝わってきた．このやり取りを聞いた周囲の子どもたちの中にも，身体の動きと連動する造形物だというイメージを持つことを促したようである．自分の造形物の長さを再検討したり，自分の身体を揺らして造形物の動きを確認したりする様子が見られた．

小学校学習指導要領図画工作科の目標では，「対象や事象を捉える図工的な視点について自分の感覚や行為を通して気付くとともに，手や体全体の感覚などを働かせ材料や用具を使い，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする．」[3] とある．子どもたちは指先や手首を動かし，時には体全体を動かして，自

分が表したいイメージを掴み取ろうとする.

図工の学習では自分のイメージをもつことを目指すが, 図工の学習だけで, イメージの醸成がうまくいくことは多くない. 今回のように, 総合的な学習の時間やダンスの学習と統合したからこそ出来たものであろう. 学級で金魚を飼育し, そのための学習を積み重ねていた総合的な学習の時間と, ダンスで, A が話していた「胸の前に水があると思って, 全部が水と思って金魚になって」いった経験などがあったからこそ, 表したい金魚像が既にしっかりとイメージできていて, 体の動きと連動させながら, 水の中で気持ちよさそうに泳ぐ形や色や素材の動きの自分なりの良さを追求する制作につながったと考える.

それは, 図鑑やインターネット上の写真で見る金魚とは異なり, 水の中を泳いでいる様子に「気持ちよさそうだな」「楽しそうだな」と自分なりに感じたり, 水の中でゆらめくヒレの動きに心を動かしたりすることを通して, 自分と金魚との関係が出来ていった賜物である. 図工では, 気持ちよさそうに水の中で動くための形や長さについて考え, 気持ちよさそうで楽しそうに感じる色を考え, つくったものがどのように動くのが良いのかを検討することを通して, 自分の見方や感じ方を深めていく. このように, 図工の学習を通して身につけてほしい, 表したいことについて考える力や創造的に発想や構想をしたりする力も育むことができたと考える.

6. アンケート調査結果と考察

一連の学習によって, 子どもの学習にどのような変化が見られたかについて, 2024年3月に, 自己評価による2件法のアンケート調査を行った.

アンケートの質問項目は添付資料1の通りであり, 1・3は, 教科横断的な学習が, ダンス学習に及ぼす学習意欲, 2・10はダンス学習で問いをもって自発的に学んでいたかどうか, 4-6はダンス学習が総合的な学習に及ぼす影響, 7-9は総合的な学習がダンス学習に及ぼす影響, 11-13は図工学習がダンス学習に及ぼす影響を調査した.

アンケート調査の結果を以下表1にまとめる.

項目1『「金ぎょ」[注2]のダンスをしてダンスをすきになった』と回答した児童は52名であり, 全体の80%であった. 一方, 項目3『「金ぎょ」のダンスははじめからすきだった』に「はい」と回答した児童は40名であり, 全回答の61.5%であった. このことから, ダンスで「金ぎょ」を取り上げたことによって, 全体の約2割の子どもがダンスへの学習意欲を高めたことになる.

表 1　アンケート結果　「はい」と回答した人数

質問項目	月（人）	星（人）	合計（人）	%
1	28	24	52	80
2	22	21	43	66.2
3	22	18	40	61.5
4	30	26	56	86.2
5	24	24	48	73.8
6	23	26	49	75.4
7	26	23	49	75.4
8	26	21	47	72.3
9	25	25	50	76.9
10	27	26	53	81.5
11	25	23	48	73.8
12	22	24	46	70.8
13	24	26	50	76.9

項目2『「金ぎょ」のポイが「ちぎれないように」することにこだわった』と回答したのは43名であり, 全体の66.2%であった. ポイがちぎれないことにこだわるのは, 運動会練習当初グループで一匹の金魚を表現する際に互いの接触がなくなることで「一匹の金魚ではなくなってしまう」と発言をしたり日記[注5]に書いたりしたことと同様のこだわりであると考えられる. その一方, 項目10『れんしゅうをするうちに「金ぎょ」のダンスがすきになった』と回答したのは, 53名であり, 全体の81.5%であった. このことから, ダンスの学習において, 多くの児童が記号的な形にとらわれない動きを創意工夫することに意欲的になれたことが伺える.

項目 4-6 は, ダンス学習が総合的な学習に及ぼす影響であり, 項目 4 は, とりわけ学習意欲を表しているが, 「はい」と回答した児童は 56 名であり, 全体の 86.2%であった. 項目 5-6 は, ダンス学習が総合的な学習に及ぼす追究の具体を表しているが, 「はい」と回答した児童はそれぞれ 48 名と 49 名であり, 全体の 73.8%, 75.4%であった. つまり, 多くの児童がダンス学習によって, 総合的な学

習における具体的な追究が進んでいるといえよう．特に学習意欲について高い因果関係が見られた．

項目7-9は総合的な学習がダンス学習に及ぼす影響であり，項目7は，学習意欲を表しているが，「はい」と回答した児童は49名であり，全体の75.4%であった．項目8-9は，総合的な学習がダンス学習に及ぼす追究の具体を表しているが，「はい」と回答した児童はそれぞれ47名と50名であり，全体の72.3%，76.9%であった．つまり，多くの児童が総合的な学習によって，ダンス学習が好きになり，「うごき」についての具体的な追究が「かたち」よりも進んでいる子どもが多い．

項目11-13は図工学習がダンス学習に及ぼす影響であり，項目11は，特に学習意欲を表しているが，「はい」と回答した児童は48名であり，全体の73.8%であった．項目12-13は，図工学習がダンス学習に及ぼす追究の具体を表しているが，「はい」と回答した児童はそれぞれ46名と50名であり，全体の70.8%，76.9%であった．つまり，多くの児童が図工学習によって，ダンス学習が好きになり，具体的な追究が進んでいると思われる．特に，「うごき」についての具体的な追究が「かたち」よりも進んでいる子どもが多い．

総合的な学習とダンス学習，図工の学習で「金魚」という一つの材を扱うことにより，子どもが「きんぎょ」を各教科の枠組みとして捉えず，自身の生活と結びつけて総合的に捉え，自分ごととしての表現活動に活かすことができたことがわかる．

また，対象への興味関心が深まり学習意欲が高まることがわかった．同じ「金魚」であっても，各教科の多方面から追究の方向性を知ることができたことにより，学びの広がりや深まりが見られたと推察する．

これらを踏まえると，総合的な学習や図工の学習によって，ダンスの動きに変化が見られた．特に，形式的な「かたち」よりもどう動くかに注目する児童が多い．このことは，ダンス学習で，子どもたちが何を学ぼうとしているのかの変遷が伺える．ダンスを学習するにあたって，当初はグループで作る一匹の金魚やポイに代表される，そのものを記号として伝える形式的な「かたち」を保つことを学習の指標にしている．学習が進むにつれて，表現したいものがどう動くものなのか，自分たちはどう動きたいかに関心が移ったのではないかと推察される．

今回のアンケート調査では児童の発達段階を考慮し，2件法で行った．子どもが金魚の「うごき」に注目したのか，「かたち」に注目したのか，という2つのことに制限して質問項目作成を行ったため，一人ひとりの子どもが，「うごき」や「かたち」の中で特にどのような部分に注目して問いを立てているのか，また，その問いはどのような段階で教科を超えて総合的に解決されていくのか，そのプロセスについては不明瞭である．今後，インタビュー法等，児童に適した方法を模索し，子どもの教科横断的な学びのプロセスを明らかにしていく必要がある．

まとめ

子どもたちは，金魚を飼い，社会見学に行って金魚への学習に取り組んだのち，被り物をつけ踊ることによって金魚になり，金魚への関心や学習意欲が飛躍的に高まった．自分が金魚になることで，子どもたちが，生き生き学習する様子が伺え，身体性を伴った学習の意義を感じる．

運動会本番ののち，最初のダンス学習の時間に「きんぎょってこういう生きものってわかるようになった」と発言した子がいた．学習の中に身体性が伴うことで理解が進み，身をもって理解できたのであろう．

通常，副教科の専科は，子どもたちの学習習熟度を授業内でのみ判断する．そして，そこから次の題材をどうするかを練り直す．今回の総合的な学習の横断幅の大きさによって，それまで予測していた習熟度をはるかに超えるものを子どもたちが獲得し，ひいては予測していなかった新たな学びがあることを知った．副教科は，自己完結させる以外にも目を向ける必要があるのではないか。

注

注1)　この研究対象となる授業展開がなされた奈良女子大学附属小学校（以下，この小学校）では，総合的な学習の時間及び生活科を併せ持つ科目として「しごと学習」という名称での授業となる．

注2)　文中，1 年生の漢字学習状況に準じて子どもたちへの提示が「きんぎょ」から「金ぎょ」へと変わる．

注3)　この小学校では，1～3 年生の間，体育の一環として毎週 1 回「ダンス」という名称で「表現」の授業がある．

注4)　ダンスの授業は，担任ではなく専科の教員が行う．図工も同様である．

注5)　この小学校は，6 年間毎日日記を書き提出する．

文献

1）文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）第 5 章　総合的な学習の時間　p. 181

2）文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 9

3）文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）図画工作編　p. 35

添付資料 1　「金ぎょ」に関するアンケート

1. 「金ぎょ」のダンスをして、ダンスがすきになった。	はい　・　いいえ
2. 「金ぎょ」のポイが「ちぎれないように」することに　こだわった。	はい　・　いいえ
3. 「金ぎょ」のダンスは　はじめから　すきだった。	はい　・　いいえ
4. ダンスで金ぎょを　やってから　クラスの金ぎょが　より　すきになった。	はい　・　いいえ
5. ダンスで金ぎょを　やりはじめてから　クラスの金ぎょの「かたち」に ちゅうもくように　なった。	はい　・　いいえ
6. ダンスで金ぎょを　やりはじめてから　クラスの金ぎょの「うごき」に ちゅうもくするように　なった。	はい　・　いいえ
7. しごと学しゅうで「金ぎょ」をしらべ　ダンスが　より　すきになった。	はい　・　いいえ
8. しごと学しゅうで　金ぎょをしらべてから　金ぎょの「かたち」に ちゅうもくして　ダンスをするように　なった。	はい　・　いいえ
9. しごと学しゅうで　金ぎょをしらべてから　金ぎょの「うごき」に ちゅうもくして　ダンスをするように　なった。	はい　・　いいえ
10. れんしゅうを　するうちに「金ぎょ」のダンスが　すきになった。	はい　・　いいえ
11. ぞうけいの　学しゅうで「金ぎょ」の　おめんを　つくり ダンスが　より　すきになった。	はい　・　いいえ
12. ぞうけいの　学しゅうで「金ぎょ」の　おめんを　つくり 金ぎょの「かたち」に　ちゅうもくして　ダンスをするように　なった。	はい　・　いいえ
13. ぞうけいの　学しゅうで「金ぎょ」の　おめんを　つくり 金ぎょの「うごき」に　ちゅうもくして　ダンスをするように　なった。	はい　・　いいえ

添付資料 2.　運動会作品「きんぎょ」全授業記録

日時	学習形態	学習内容
9/14	クラス別 集会室	・演目及び，ストーリー及び場面設定を大まかに説明する． ・次に第二場面のポイの動きをグループ分けののち，実際にやってみる．各グループ手を繋いで円形を作り，音楽を掛けっぱなしにして，自由に動いてみる．
9/21	クラス別 集会室	・前回同様，第二場面の音楽を流し，ポイの動きを各グループ自由に踊る． ・第一場面目は同じグループで，一匹の金魚を表現する．どのように動くのか，どのように配列するのか各グループが話し合ったり，実際に動いてみたりする．音楽はかけっぱなし．
9/25	合同 体育館	・第二場面を，各クラス順に踊って見せっこをする．見ていてよかったところをお互い発表・第一場面も，同様に各クラスグループで動き見せっこをしたのち再び踊る．
9/26	合同，運動場	・運動場で踊ってみるとどうなるのか，広さを経験することが目的ですべての場面を動いてみる．
9/27	合同，運動場	・ポイの動きと一人で動く金魚をやってみる．
9/29	合同， 運動場	・第三場面の一人で動く金魚を繰り返してやってみる．途中，動きがよかった子どもをピックアップして踊ってもらう場面をつくる．
10/2	合同，運動場	・第三場面の一人で動く金魚をやってみる．・第一場面，第二場面も続けてやってみる．
10/3	合同，運動場	・グループ練習を繰り返す
10/4	合同，体育館	・第一場面と第三場面のみ踊る．見せっこを繰り返す
10/5	合同，体育館	・一人で踊る場面で，5～6 人ずつ踊ってもらう．
10/10	合同，運動場	・通して 1 回踊る．
10/12	合同，運動場	・被り物をつけて通しで踊る．
10/14	運動会当日	